

**都市計画道路田中笠窪線と新たな総合車両所
を契機とした
「持続可能なまちづくりを推進する連携協定」**



×



小田急電鉄の概要

新宿を起点に、箱根の玄関口である小田原までを結ぶ「小田原線」、湘南エリアに至る「江ノ島線」、多摩ニュータウンに至る「多摩線」の3路線、計120.5km（全70駅）からなり、通勤・通学や観光路線として、2021年度は1日約159万人のお客さまにご利用いただいています。

市内駅：伊勢原駅（一日当たりの乗降人員39,806人）



大野総合車両所の現状

【大野総合車両所の概要】

◇ 位置

相模大野駅に隣接

◆ 開設

1962年（経年60年）

◇ 車両所の主な業務

- ①車両細部の大がかりな検査（全般検査、重要部検査等）
②車両の日々の点検・整備（列車検査、車両清掃、車輪削正等）

◇ 従業員数

約 300 人（協力会社を含む）



課題

・施設・検査用設備機械が老朽化（経年60年）により、機能更新が急務

小田急電鉄における唯一の総合車両所であり、年間を通じて稼働していることから、現敷地内ではなく新築移転が必要

大野総合車両所の現状

総合車両所内の設備について

天井クレーン：車体と台車を分離させます。



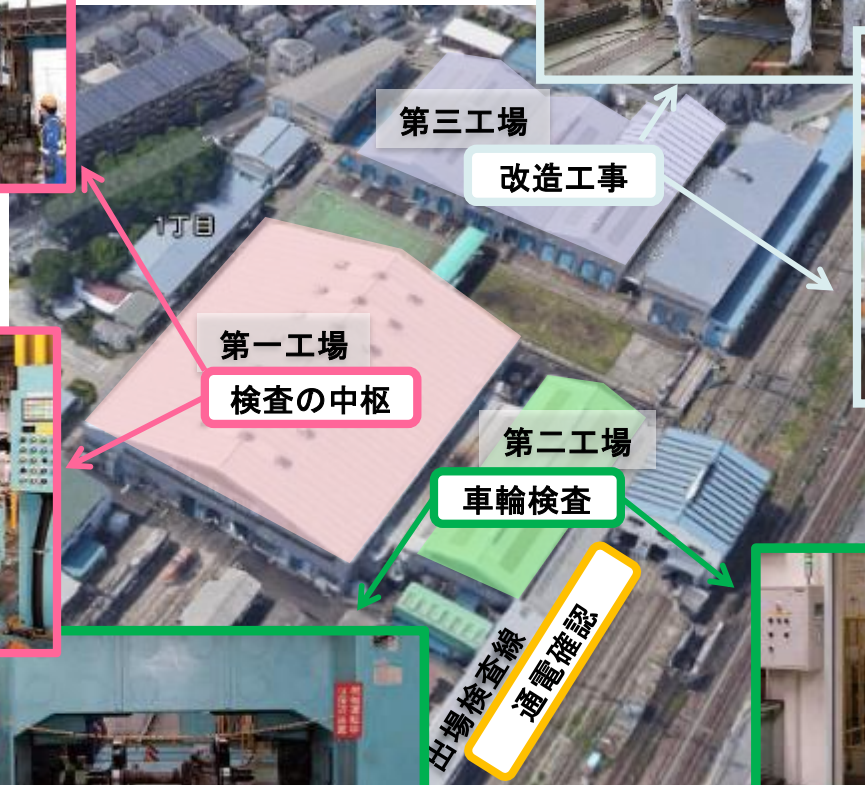
台車組立装置：

車体を支える台車に支持装置や車輪を取り付ける際に使用します。



車両改造：

細部まで分解を行い、車両の設備を最新にアップグレードします。



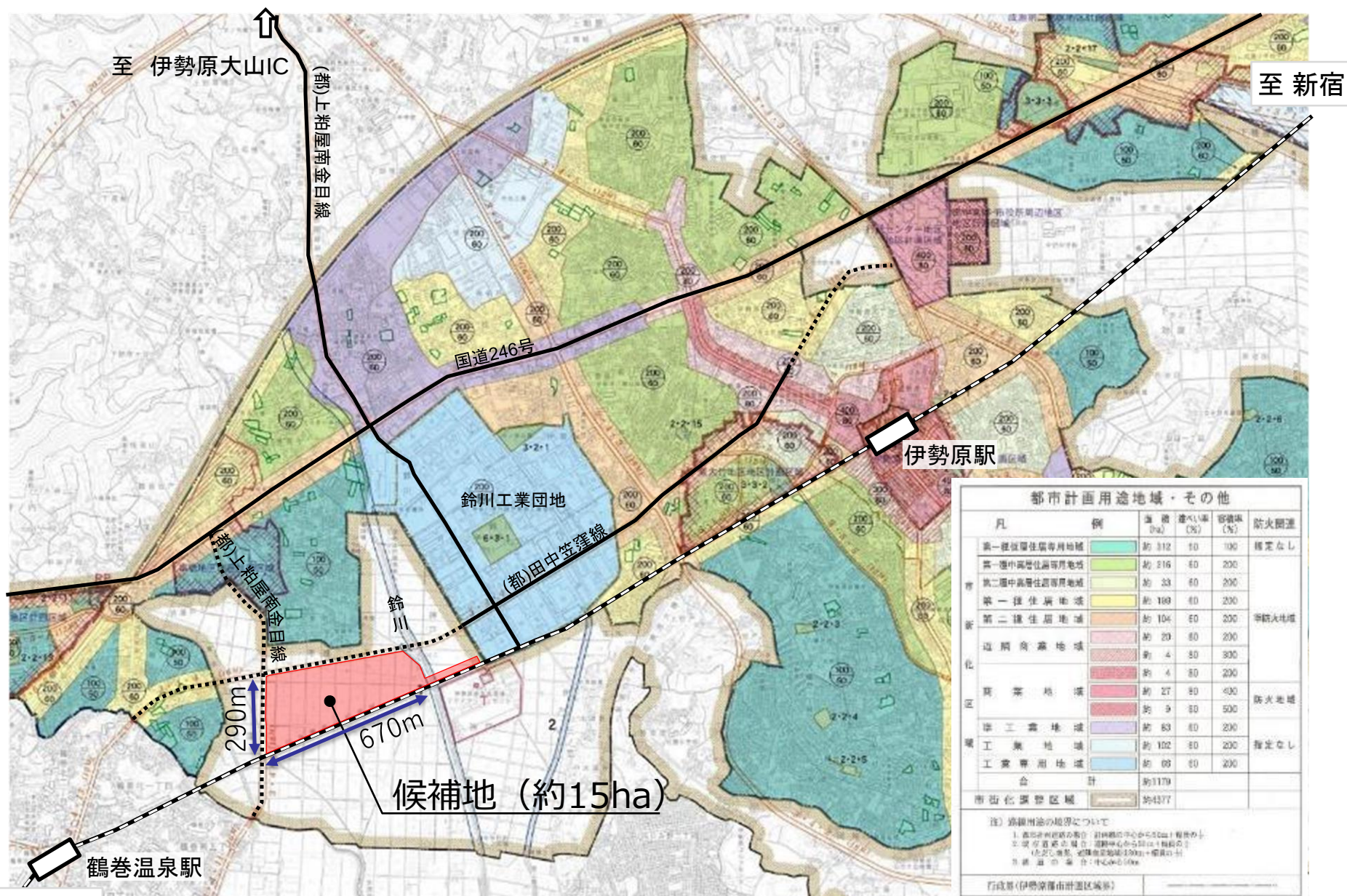
車輪旋盤：車輪の傷を削り、乗り心地を向上させます。



車輪回転試験：

車輪を疑似的に走らせ、発熱、異音、振動の有無を検査します。

新しい総合車両所の計画



	凡	例	面積 (ha)	容積率 (%)	防火圏差 (%)
市	第一種低層住居専用地域		約 312	60	100
	第一種中高層住居専用地域		約 316	60	200
	第二種中高層住居専用地域		約 33	60	200
	第一種住居地域		約 189	60	200
新	第二種住居地域		約 104	60	200
	近隣商業地域		約 20	60	200
化			約 4	80	300
			約 4	80	200
区	商業地域		約 27	80	400
			約 9	80	500
境	準工業地域		約 63	60	200
	工業地域		約 102	80	200
	工業専用地域		約 69	60	200
	合 計		約 1179		
市街化調整区域				約 4377	

注) 市街化調整区域の境界について

1. 市街化調整区域の割合: 計画区域の中心から50m以内の割合
2. 市街化調整区域の割合: 市街化調整区域の中心から50m以内の割合
- (ただし、市街化調整区域の中心から50m以内の割合は、市街化調整区域の中心から50m以内の割合)
3. 市街化調整区域の割合: 市街化調整区域の中心から50m以内の割合

行政界(伊勢原市市界区域)

総合車両所を活用した今後の検討施策

- ・地域の学校と協力した課外授業
- ・親子、学生を対象とした体験教室



- ・地域や自治体と連携した防災体制の整備

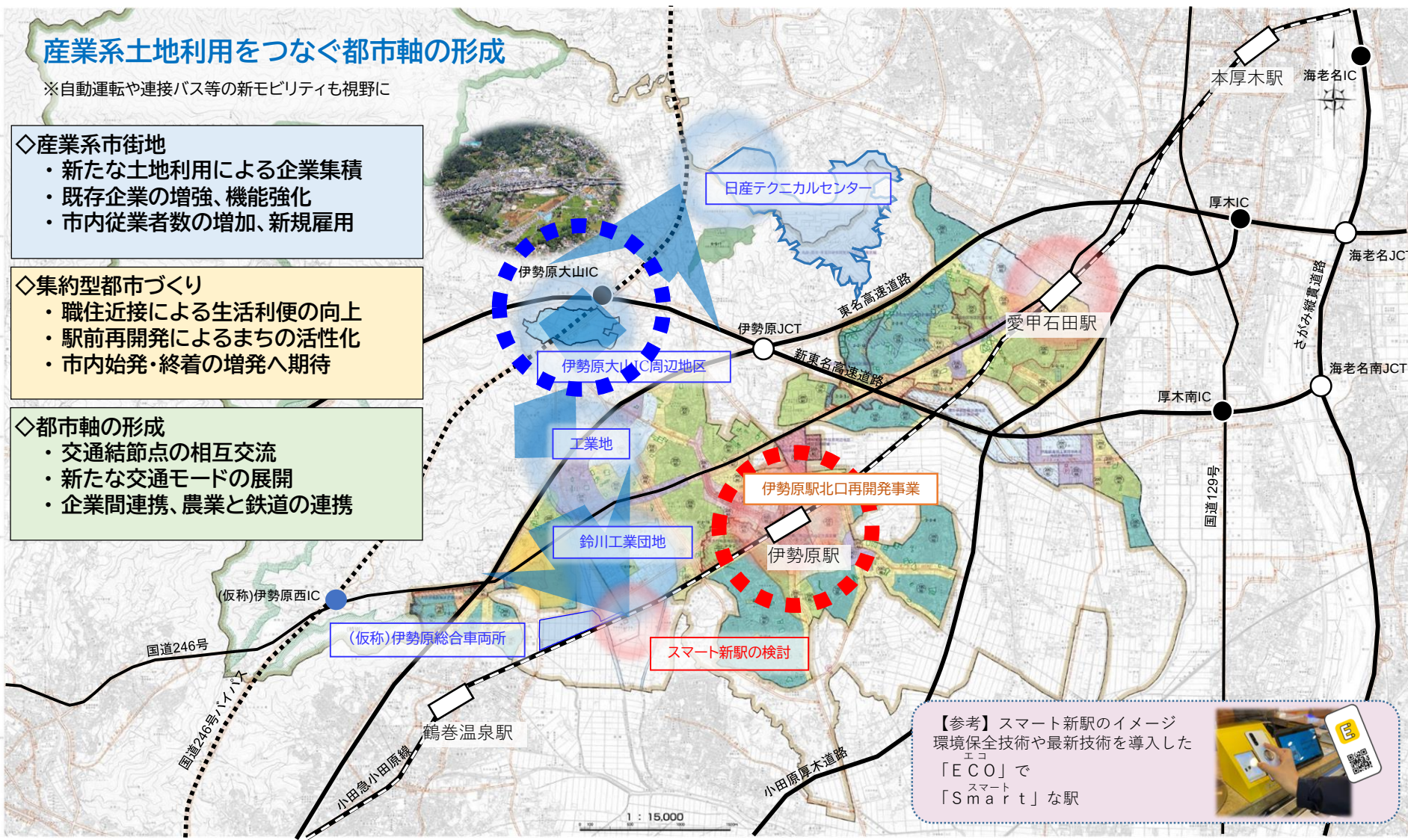


都市計画道路 田中笠窪線 整備事業

- 市内の東西交通を支える重要な路線である田中笠窪線は、新東名高速道路の全線開通による市内の新たな交通需要が見込まれる中、早期の機能発揮が必要



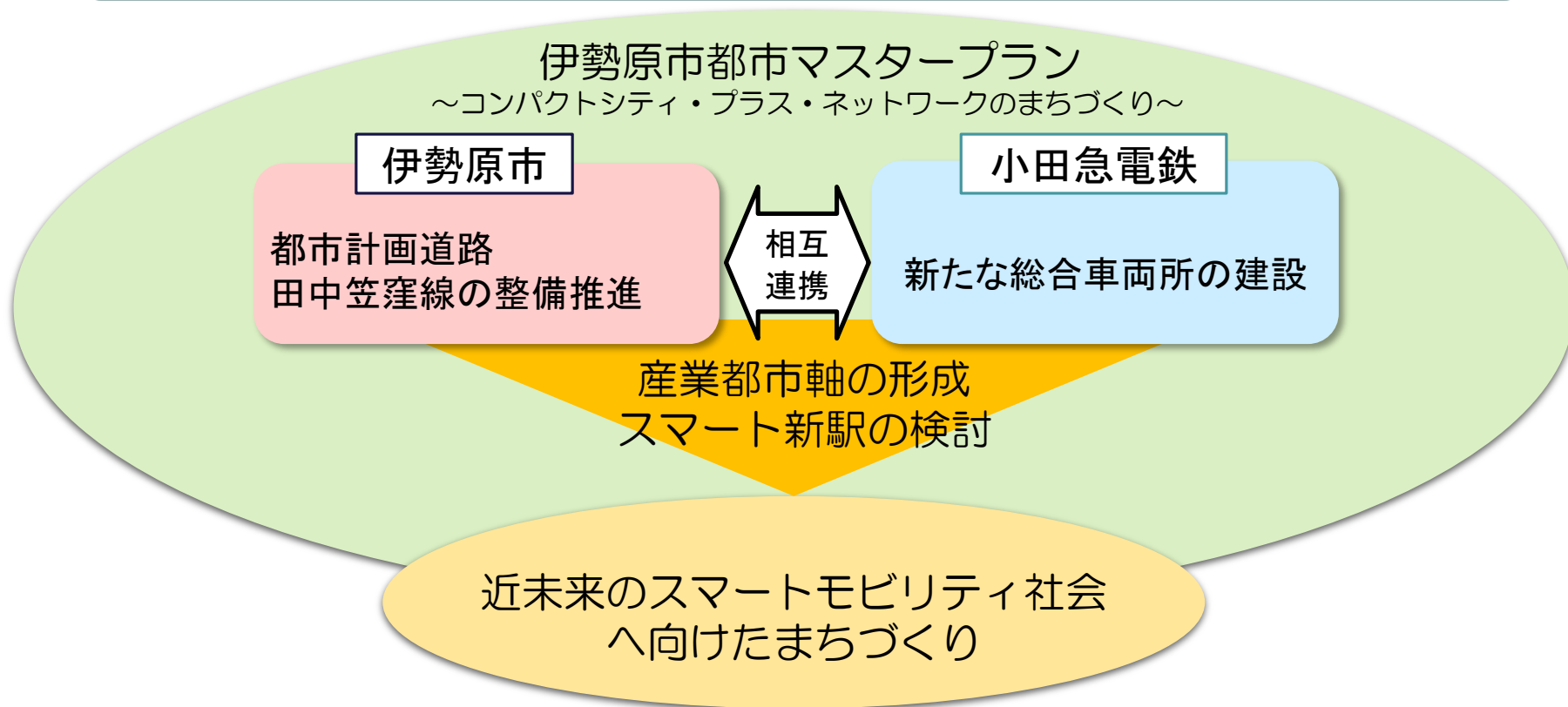
期待されるまちづくりへの主な波及効果



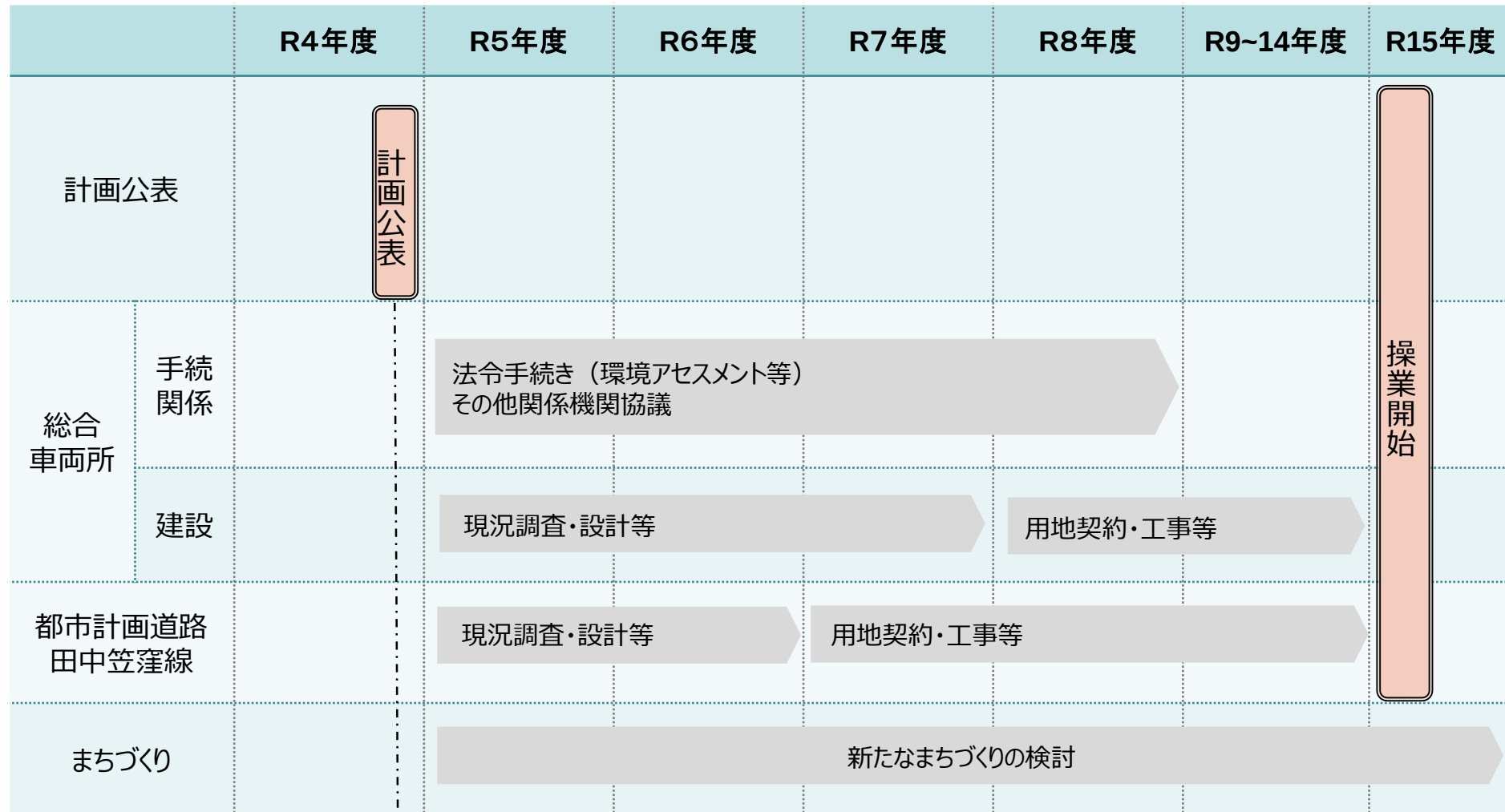
持続可能なまちづくりを推進する連携協定

➤ 伊勢原市と小田急電鉄(株)において連携協定を締結

新たな総合車両所の建設計画と、都市計画道路田中笠窪線整備事業が相互に協力し連携を図るとともに、これらの事業を契機とした産業都市軸の形成やスマート新駅の検討など、伊勢原市と小田急電鉄(株)がパートナーシップにより近未来のスマートモビリティ社会へ向けた持続可能なまちづくりに取り組む



全体スケジュール(想定)



※想定スケジュールであるため、今後変更となる場合があります